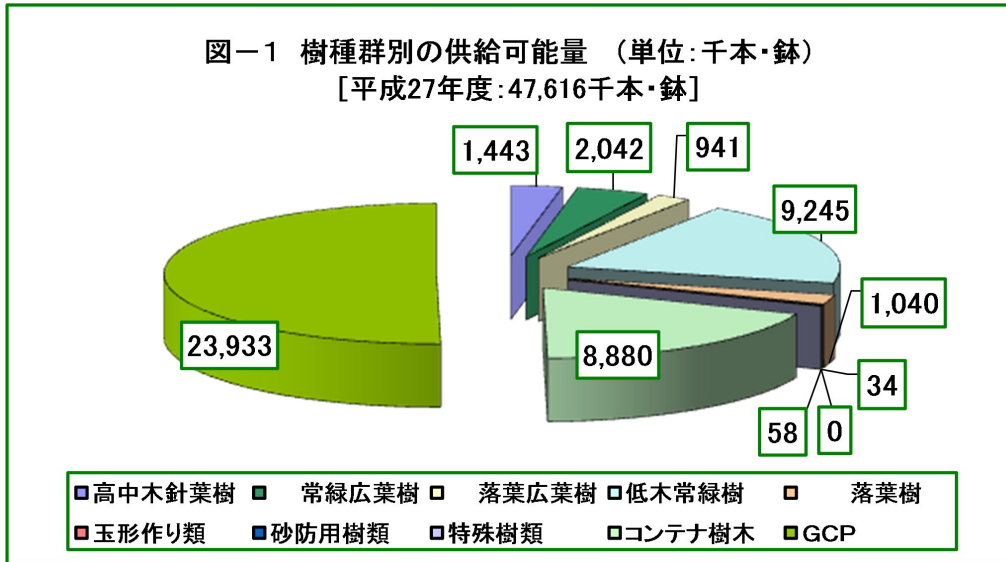


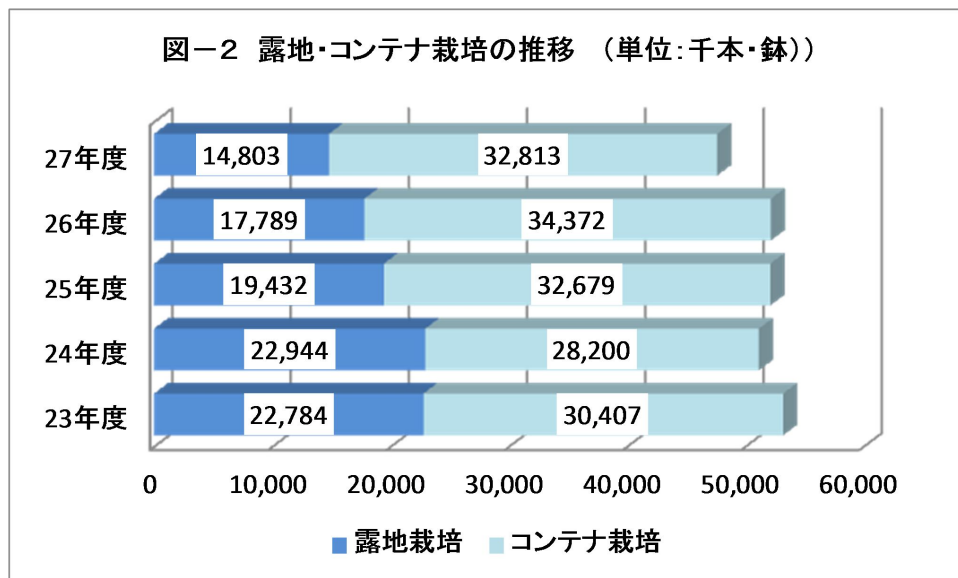
## 調査結果の概要

平成27年度の供給可能量は4,762万本となり、対26年度比(5,216万本)91.3%と減少し、2年連続の増加から再び下降に転じている。ピーク時(平成6年度、1億7,800万本)のほぼ4分の1の水準となる(図-1)。樹種群別内訳は、グラウンドカバープランツ(GCP)が最も多く全体の半数を超え(50.3%)、次に低木常緑樹がおおよそ5分の1の19.4%、3番目にコンテナ樹木18.6%の順となり、2位と3位の数量が次第に近づいている。露地栽培物のシェア31.1%に対し、コンテナ栽培物のシェアは68.9%、3対7となっている。露地の数量をコンテナが逆転した平成7年度以降に最も高いシェアを更新している。



主要な樹種群について種類別の内訳をみると、GCPでは、タマリユウ503万鉢(GCP全体の21.0%)、シバザクラ類313万鉢(同13.1%)、フイヤブラン105万鉢(同4.4%)の構成となる。

低木常緑樹ではサツキ402万本(低木常緑樹全体の43.5%)、ヒラドツツジ132万本(同14.3%)、オオムラサキツツジ120万本(同13.0%)が上位3樹種を構成している。

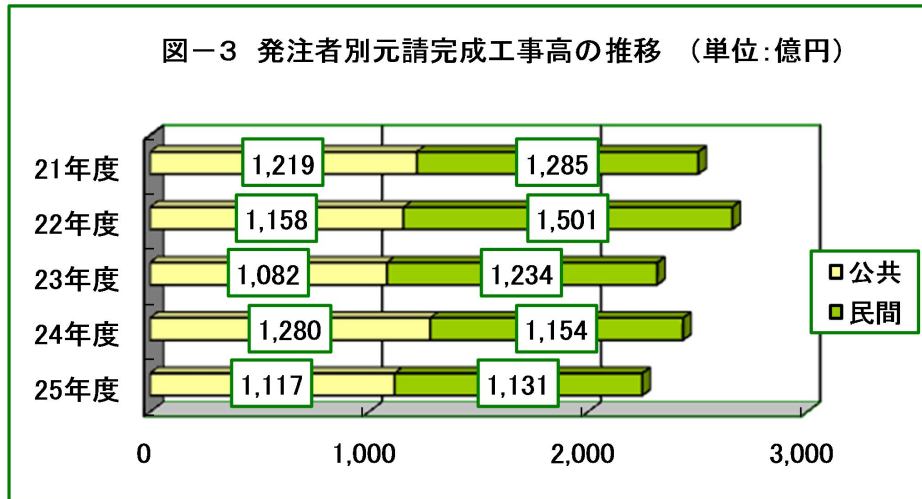


コンテナ樹木は、*Cham. pi.* ‘フィリフェラ・オーレア’57万鉢(コンテナ樹木全体の6.4%)、セイヨウベニカナメ54万鉢(同6.1%)、オタフクナンテン49万鉢(同5.6%)、が上位を占めている。

27年度の総数は26年度に対し8.7ポイント減少し、対26年度比は露地物83.2%に対しコンテナ物95.5%となり、露地物の後退とともに、コンテナ物も2年続いた増加から減少となっている(図-2)。27年度露地栽培樹木の対前年度比の内訳は、高中木86.7%、低木82.0%と、どちらも減少している。コンテナ栽培物は樹木81.6%、GCP101.9%となっていることから、低木の減退が全体の減少をもたらしている。

## [需要の動向]

建設工事施工統計調査(国土交通省)によると、平成25年度の造園工事完成工事高は4,298億円、前年度に比べ3.0%の減、平成15年度より8年連続の減少を昨年度に押し止めていたが、再び減少に転じている。このうち、造園工事業種が元請で受注している金額は2,248億円(前年度比7.7%減)で、元請比率は52.3%を占める。元請比率は前年度に比べ2.7ポイント下降している。完成工事高は平成15年度以降で見ると、平成17年度までおおむね7千億円台を動き、平成19年度まで5千億円台、平成20年度以降は4千億円台を横這いで推移している。また、平成25年度の元請受注額を発注者別にみると、公共は1,117億円(49.7%)、民間は1,131億円(50.3%)となり、21年度から3年続いた民間の優位を昨年度公共に渡し再び取り戻す結果となる(図-3)。



なお、造園工事業を含む総合工事業8業種全体で見ると、平成25年度の元請比率は77.2%、公共と民間の比率は30.2%:69.8%となっている。

公共工事の全体的状況を、「公共工事前払金保証統計」(北海道・東日本・西日本建設業保証株)によって検討する。平成26年度の件数は265,006件、前年度に比較し5.4%の減、請負金額は14兆5,222億円、前年度に比べ0.3%減となり、2年連続の増加から減少に転じている。発注者別では、市区町村が最も大きく件数で49.5%、請負金額で37.8%を占めている。2番目は都道府県が各々38.9%、29.7%となる。地域別には、関東のウェイトが大きく件数で20.7%、請負金額で24.3%を占める。

1件当たり請負金額の推移をみると、平成26年度は5,480万円となり、こちらは3年連続増加している。造園植栽工事に結びつきの強い公園および道路工事の請負金額について、道路部門は昨年度よりわずかに減少、公園部門は3年続けて増加となる。

「建設工事受注動態統計調査(大手50社)」(国土交通省)をもとに、民間の建築・土木工事の動向を把握する。平成26年度の受注高は8兆8,928億円、民間工事は、不動産業、製造業等が伸びたため、前年度比4.8%増えて、4年連続の増加となる。

## [集計上の注意事項]

1) 2015\_年度別推移基礎資料 B.xls について

- ①集計明細 H27 のコンテナ集計の合計(AK 列 32 行)に、草本マット栽培 152,580 m<sup>2</sup>が加算 → 除いて集計
- ②同露地集計の合計(AK 列 55 行)に、露地マット栽培 34,050 m<sup>2</sup>が加算 → 除いて集計
- ③同総数(AK 列 56 行)に上記の数字が加算 → 除いて集計
- ④最近5カ年の供給可能量の推移表(平成 23~27 年)は、構成比を一部計算し直しているため、このファイルの表を使用する

2) タマリユウについて

H27\_供給可能量一覧表 (2010).xls からタマリユウを抜き出して集計したファイルがタマリユウ全国詳細\_H27.xls である。

次に示すように、2015\_樹種群別 上位樹種.xls のタマリユウは、コンテナの 5 芽立と m<sup>2</sup>の数字を合算した数字が記載されている。 → 5 芽立のみの数字とする。

コンテナ		露地 m <sup>2</sup>	計
5 芽立	m <sup>2</sup>		
5,030,650	152,580	31,750	5,214,980

5,183,230